

■永井いと 養蚕指導者。夫と“いぶし飼い”創案し、夫没後、伝習所を開設した。

ながいいと

・・・・・・1836＝ 上野国追見の金子半右衛門の長女に生れる。

大塩平八郎乱1837＝ 1歳：

阿部正弘首座1845＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝17歳：

開国開港・・・・1854＝18歳：

片品村の永井紺周郎と結婚。

桜田門外変・1860＝24歳：

8月18日政変 1863＝27歳：

当時、蚕は煙をきらうというので、蚕室に火気は禁物とされていた。

明治維新・・・・1868＝32歳：

戊辰戦争の折、沼田藩士20数人が雨に濡れて泊り、これを乾すために一晚中火を焚いた。二階の蚕室にも煙は回り、紺周郎・いと夫婦は大いに蚕を心配した。翌日、蚕の様子を見るに、元気であるばかりか、病蚕までも回復して桑をむさぼり食っている。これにヒントを得て、

戊辰戦争終・1869＝33歳：

学問のすすめ1872＝36歳：

明治6年政変 1873＝37歳：

夫婦はさらに研究を重ねて、俗に“いぶし飼い”という飼育法をあみ出した。煙で室内の空気を動かし、適当に乾燥させ、桑葉がしなびるため給桑回数を多くする方法である。

明治14年政変1881＝45歳：

秩父事件・・・・1884＝48歳：

*画期的な飼育法といわれ、“永井流”と名づけられた。

夫紺周郎は、熊谷県から蚕種検査・養蚕見廻役などを命ぜられ、郡内外の養蚕業の指導に奔走。

国民之友始・1887＝51歳：

初の対等条約1888＝52歳：

「永井流養蚕伝習所」の設置願いを出したが、その年に夫が死去、

*養蚕伝習所の認可が下りたので、夫の遺志を継いで、自宅に伝習所を開設し、息子の文治とともに生徒の指導にあたる。

帝国憲法発布1889＝53歳：

帝国議会始・1890＝54歳：

本科生と別科生があり、両方あわせると1500人を数え、生来の勝気で、村々を馬で駆け回って指導にあたり、“紺周郎婆さん”と呼ばれ、

日清戦争始・1894＝58歳：

Bushidou・・・・1899＝63歳：

日露戦争始・1904＝68歳：

没した。

群馬県勢多郡旧横野村勝保沢には、紺周郎・いと霊神碑があり、北群馬郡旧長尾村横堀には、永井いと蚕師報恩碑が建っている。